

## 大会時・コロナ禍での取組

・コロナ禍となり取組を開始

### 人の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

- テレワーク・・・現場に関わらない人事部等で実施
- 会議等のオンライン化・・・1～2回/月の定例会議をオンライン化
- 書類等の電子化・・・区の啓発により従前よりできるところから電子化

### 物の流れ

きっかけ

以前より実施

オリバラ

コロナ禍

#### 配送に関する調整

- ・取引先との調整によりリードタイムを1日延長
- ・前日に物量を把握して車両を準備
- ・都の各種情報をもとに配送遅延等の説明を実施

#### 配送ルートの変更

- ・環状2号線や選手村周辺は別便で対応、影響がないことを確認し、途中から通常の便に変更
- ※パラリンピックは初めから通常便で実施

### 取組ポイント

- 管理部が中心となり、機器などオンライン環境を整備
- 区の啓発を受けて事前に電子化を推進

### 取組ポイント

- 都の各種情報をもとに顧客に事前説明し協力を得ることで、取組を実現
- 交通状況に応じて臨機応変な配送ルートの設定

## 今後の取組

### 人の流れ

継続して取組を実施予定

#### 会議等のオンライン化

全ての部門でのテレワーク実施には、現場のAI化が必要だと考える。

### 物の流れ

#### リードタイムの緩和

#### 取引先との配送に関する調整

## 【東京2020大会を振り返って】

- ・東京2020大会の開催が決定し、非常に不安ではあったが、結果、無観客となり、首都高も普段より空いている状態だった。
- ・東京都からリアルタイムで提供された情報を、大いに活用した。
- ・2024年問題については、自社では5年ほど前から議論している。令和2年の国交省の提言書（「2020年代の総合物流施策大綱に関する有識者検討会 提言（案）」（令和2年12月22日）」をもとに、荷主等にも提示し、理解を求めてきている。取引先に対しても、輸出入が多い地区の実績等も見せながら状況理解を促している。
- ・倉庫業者や卸売業に対する法定遵守の説明や、物量等については専用アプリで事前の把握により、現在では、労働時間や検品の待ち時間、付帯作業等の解消について、おおよそクリアされつつある。
- ・現在は「ホワイト物流」といわれ、各社で取組が始まったばかりだが、この取組が業界各社で定着していけば、より改善されていくものと感じている。